第 2016-22 号

恵みと真理のニュース

2016 年 5 月の五次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　私の力になる主よ。私が主を愛します

子供の頃は熱心に教会を通う学生でした。小学生の時には教会を休むこともなく聖歌隊でも熱心に奉仕して大人になると教会学校の先生になろうと夢を持ちました。中学生になっても聖霊に満たされて学生の委員で活動しました。ところが高校生になってソウルからソンナンに引越ししてから私の信仰は危機が来ました。はじめは教会が遠くても2時間バスに乗って楽しく行きましたが、一回二回休んで結局、主を離れる状況になってしまいました。そして、成人になり今の旦那に出会って結婚し息子を産みました。
その時にはこれから万時が思うと通りになると考えました。しかし、旦那の職場が不安定になったある日から家計が良くなくなり今の職場より良い会社を探　そうとしても努力しましたが、思うとおりにならなかったです。子供も若いのに前が暗かったです。おろかに私は相変わらずイエス様を忘れ教会に通う考えもしなかったです。自分が願うとおりにならなくて苦しかったです。
そのようにどんな意味もなく困苦している私に母と共に教会に通うと誘いました。当時母は通う教会がありましたが、教会のないで不和があって礼拝に捧げても心が楽しくなく不安でした。そんな状況の中で私と母が探した教会が恵と真理教会のスワン聖殿でした。
初めて教会に入った瞬間涙が出ました。悔い改める祈りをしました。今まで主の前で犯した罪が多くてそんな私を待たせた主がおられ、赦してくださるその愛が感じられ涙が止まらなかったです。しかも、賛美歌が317章（早く主の所に戻って来い）でした。今まで生きて来た私の人生が間違ったことを悟って泣きまた、主が私を呼んでくださったことに感激して泣きました。
母も御言葉と聖霊で充満な礼拝にかんどうを受けて礼拝時間ずっと感謝の涙を流しました。
息子を連れて教会に通い私と母は聖歌隊で奉仕をしました。そして旦那と婚家の家族のため祈りをする朝でした。教会に行く準備をする時に寝ていた父を起こして“お父さん、お父さんだけ地獄に行くとどうするんですか。一緒に教会に行きましょう。”としました。大きく泣きました。その時から旦那は礼拝を参席しなくても私と息子を迎えに
来てくれました。私達を待ってくれる旦那を聖歌隊の指揮者が伝道しました。教会に来ると指揮者に会わないように避けていた旦那がついに決信して私と共に聖歌隊席に立つようになりました。熱心に信仰生活をする家庭に主は福を与えてくださってヨンインに引越しました。ヨンイン聖殿に来て私は区域長の職分も受けて体の調子が悪くて聖歌隊を休む間教会学校の教師をするように誘われました。従順して小学部で奉仕し聖歌隊部で指導をしました。考えてみたら小さい時私の夢が成し遂げられました。主は今まで忘れていた夢を思いさせ、足りない私を教師として立ててくださったのです。
舅姑のため祈って婚家に行く時ことに伝道すると“　私はもういいから、あなた達だけ熱心に通いなさい。”とした舅が胃癌になり、すぐ悪化されホスピスで生活しています。私は舅のため毎日病院に行って介護をしました。そうしながら舅と信仰の話しをして、心に感動を受け教会の牧師と伝道士の訪問を受けて決信しました。その日、父は信仰告白をして牧師の手を強く掴んで、“赦してください、イエス様を信じます。”としました。そして3日後平安な心で天国に行きました。
舅の葬式をする時に父の兄が祭祀をすると強く主張しました。しかし、　舅は救われて天国に行ったから葬式はキリスト教式で行ないます。私達の説得で教会で葬式をするようにしてくれました。教会で長路と勧士をはじめ多くの聖徒が来てくださって礼拝を捧げて慰めてくださいました。神様の恵みの中で葬式が終わって姑が私の手を握って“ありがとう、ご苦労さん、父を良い所に行くように導いたことありがとう。”と話しました。
北朝鮮が故郷で友達もいなくて寂しかったですが教会で多くの方々がいらっしゃって礼拝も捧げ賛美も歌って祈りもしてくださるから本当に感謝すると何回も話しました。そして、教会に来て決信しました。頑固な旦那の兄も感謝する心で神様に献金もするように渡しました。“ わたしはあなたに感謝をささげる／あなたは答え、救いを与えてくださった。”（詩篇118：21）ハレルヤ！
　舅が天に召された後、私は妊娠してきれいな娘を産みました。子供の祈りを聞いてくださり、良い時に良いもので与えて下さる神様長い間祈ったことに答えて下さいました。兄と10歳差がある娘がいつの間にか8歳になって教会学校の児童部の聖歌隊で奉仕しているし、イエス様と先生から愛をたくさん受けています。父が地獄に行くか心配して泣いた息子はGNTCミュージカルチームに入って“携挙”公演の俳優で参加しました。男性区域長で今まで伝道賞も三回以上も受けました。私のため教会を変えた母も勧士になり熱心に区域と聖徒を仕えています。
どら息子のような私を待ってくださり変化させ強い信仰で生きるようにして信仰の多様で豊かな救いを享受するように導かれた良い神様を賛美します。
主よ、わたしの力よ、わたしはあなたを慕う。（詩篇18：1）アーメン

［信仰コラム］　私が知っているのは今は見えるということです

”...すると彼は言った、「あのかたが罪人であるかどうか、わたしは知りません。ただ一つのことだけ知っています。わたしは盲人であったが、今は見えるということです」。”（ヨハネによる福音書９：２４、２５）

イエス様がエルサレムのある道に生まれながら盲人であった人が座って袖乞いをしているのを見られ、彼に近付いて地に唾を吐き泥を作って彼の目に塗った後、”シロアム（つかわされた者、の意）の池に行って洗いなさい。”と言われました。盲人がイエス様のお言葉通りに行うと直ちに彼の目が明るくなる驚くべきなことが起りました。人々が彼をパリサイ人達に連れていくとパリサイ人達が彼に目が見えるようになった縁由とイエス様を誹謗する質問をしました。盲人であった人が彼らに言った答えの中で”ただ一つのことだけ知っています。わたしは盲人であったが、今は見えるということです。”と述べたのはイエス様を信じる理由を聞く人々に私達がいかに答えるべきかを見せてくれる見本になります。”あなたがイエス様を救い主として信じる理由を話してください。”という要求についてこのような見本を適用して答えてみます。
第一、”万物の起源と存在の理由を確実に分かるようになったこと、これであります。”と答えるべきです。聖書はイエスキリストについて記録された本です。イエスキリストを信じると聖書を全部信じて創造主を知るようになり、万物の起源と存在の理由を分かるようになります。神様は御自分の存在を証明しようとなさいません。神様が御創りになった万物が神様を証明しています。神様が御創りなさった世界を私達が観察してみると豊かで多用で精密な姿に驚きます。そして、秩序と調和、美しさとミスティックに感嘆を禁じ得ません。
第二、”罪が何であれ罪の問題の解決策が何であるかを私が確実に知ったこと、これであります。”と答えるべきです。
人間は誰一人罪の問題については自由ではありません。聖書は罪が何であれ罪の問題の解決策が何であるかを扱っています。聖書を離れてはこれに関する完全な知識を得ることができません。人が罪人に理由を大きく二つに分けることができます。一つは、自分の行為とかかわりがありません。二つは、罪を犯しながら生きるからです。人類最初の祖先であるアダムが神様に犯罪して罪人になったことによってアダムの子孫達は全て罪人として生まれるようになります。どの時代の人であれ罪の意識があり、罪の問題解決を求めているという事実もこれを証明します。罪人には神様の怒りが留っており結局、罪人は審判を受けて滅びるようになるのは拒否できない運命です。しかし、このような運命から逃れる道が提供されました。誰でもイエスキリストを信じると罪の許しやとこしえの命を得て、神様の子になり天国に入ることができるようになりました。
第三、”死が何であれ死後について私が確実に知ったこと、これであります。”と答えるべきです。
聖書は死と死後のことについて人が知る必要があることは全て知らせてくれます。死は肉親と魂の分離です。この世で生きる間に罪の問題を解決されなかった人の魂は地獄に行き、イエスキリストを信じて罪の問題が解決された人の魂は天国に行きます。そして、将来には体が蘇ります。良いことを行った人は生命の復活をして悪いことを行った人は審判の復活をします。良いことと悪いこととはイエスキリストを信じることと信じないことを意味します。イエスキリストを信じる人はその魂が復活した体を被って天国で永遠に生きるようになります。
イエスキリストを信じると今まで見られなかった人が見るようになります。神霊なことを見るようになります。その反面、イエスキリストを信じないと神霊なことを全然見られないまま生きて審判を受け滅びるようになります。イエスキリストを真実に信じる人は誰でもこのように話すことができます。イエス様は以前に見ることができなかった私は今は見えるようにしてくださいました。神霊な真理を知るようにしてくださいました。”私は万物の起源と存在の理由を確実に知るようになりました。私は罪が何であれ罪の問題の解決策が何であるかを確実に知るようになりました。私は死が何であれ死後のことについて確実に知るようになりました。”

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

両親の恵みと子供の敬い

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人が使う単語の中に非常に美しくて感動的で珍しい言葉は恵みという言葉と愛というのです。人が体験することができる一番崇高な恵みと愛はその第一が神様の恵みと愛であり、二番目がご両親の恵みと愛です。 人が感じて所有するようになる幸せの深さは正しくこのような恵みと愛に対する体験の深さと比例します。このような恵みと愛を悟って感謝する意味を積極的に現わすことは私たちに許諾された神の聖な義務で特権です。 今日は子供に向けた両親の恵みと愛に対してよく見て同時に親の敬いの理由と道理に対してよく見ます。

第一は、両親の恵みと愛に対してよく見ます。

両親の恵みと愛と言うのは無条件的なのです。理性で計算しては到底に愛することができない子でも親はその子のために涙を流しながら死ぬまで労力しながら気づかいます。 私たちはタビデ王の生涯が記録された聖書を通じて子に対する両親の愛に関する涙ぐましい記事を読めます。 タビデ王の息子アブサロムは外見が秀逸にハンサムであったが彼の心には悪い考えが一杯でした。彼は父の王位をさんだつするためにヘブロンで軍事を集めてエルサレム王宮に攻めこみました。
タビデ王は息子と向い合って争うことができなくて慌てて逃げてヨダン川を越えてマハナイムまで避難しました。 エルサレムで無血入城をして王宮を占拠したアブサロムは全国で軍事を募集して莫強した軍隊を組織した後に直接陣頭指揮してタビデ王に付いて行った軍事を打とうと出ました。 マハナイムで軍事を整えたタビデ王が叛軍を押えるために軍事を送りながら軍将に “私の息子アブサロムを寛大に接待しなさい。” その懇懇と指示しました。 ついに二篇の軍事がエフライム茂みで猛烈に争ったがアブサロムの軍事がタビデの部下に敗れました。叛軍を陣頭指揮したアブサロムが馬に乗って行っている途中彼の長い髪の毛が かしの木の枝に絡まってしまいました。 乗って行った馬は抜けてアブサロムは木に髪の毛が練れて絡められて空中にぶら下げられました。 この時ヨアブ将軍がアブサロムの心臓を突きました。 こういうわけで反乱は押えられました。 ヨアブ将軍の送った人がマハナイムから駆け付けてタビデ王に勝利の消息を知らせました。 するとタビデは伝令に聞きました。 “「若者アブサロムは平安ですか」” その伝令はアブサロムが死んだと答えました。 するとタビデ王は胸が痞えるようで城の門にある小部屋に上がって“王はひじょうに悲しみ、門の上のへやに上って泣いた。彼は行きながらこのように言った、「わが子アブサロムよ。わが子、わが子アブサロムよ。ああ、わたしが代って死ねばよかったのに。アブサロム、わが子よ、わが子よ」。”（サムエル記下，18:33）しながら泣きわめきました。 これがすなわち両親の心です。 息子はそのように親に不孝して不良な子を向けたご両親の愛は変わることができないのです。

両親の恵みと愛は子のためにあらゆる犠牲を忍耐させて子のために最善をつくさせます。 その中にもお母さんの愛はもっと強烈であるのです。 立派な人物の背後には立派なお母さんがいます。 アメリカが生んだ 19 世紀の偉大な伝道者 D. L. ムーディーは 40 年度まだならない伝道活動で約 5,000 万人に福音を伝えて 100 万人を救いの道で導きました。 ムーディーのお父さんは 1841 年 5 月に 41 歳で世を去りました。 夫を失ったベッシ女史は貧しい暮しに 7 男 2 女を養育しようとしてすごく苦労をしました。 彼を同情する人々がその救済策で子供を養子に送りなさいと勧勉しました。しかしムーディーのお母さんは子供を他人の家へ養子に送ればひもじいお腹は満たすことができるが信仰心を植えてくれる事は難しいことで分かってどんな苦難と誘惑にも揺れなかったです。 ムーディーのお母さんは子供を信仰の中で養育しました。 ムーディーのお母さんが 93 歳の年で世を去った時その葬式でムーディーは言いました。 “もしすべての人が私のお母さんのようなお母さんを持つことができたらこの地には監獄が必要ではないだろうし また世の中の人がすべてこのようなお母さんの養育を受けたら私のような人にならない者がいないだろう。” としました。
両親の愛とその恵みはどの時代どの民族にも違いがないです。 このように両親の子供に対する愛は人間のために神様がくださった偉大な贈り物であり恩寵です。

二番目は、子供が親を敬わなければならない理由をよく見ます。

第一、人が親を敬うことは人間本性から湧き出るのです。 どの時代、どの社会でも親の敬いに対する制度と教えがあるのを見る時親の敬いは神様がくださった人間本性から湧き出たのです。
第二、親の敬いの抉る神様が与える法律で戒めです。 神様はすべての人が守って行わなければならない本分になる十戒めをくださいました。1 戒めから 4 戒めまでは人間が神様との関係で守らなければならない戒めです。 5 戒めから 10 戒めまではにの戒めです。 ところで 人間関係の戒めの中にその第一が “君の親を敬いなさい”と言うお言葉です。 親を敬うことは神様の戒めなので子供は必ず親を敬わなければなりません。
第三、聖書には親に不孝する子に対する呪いと刑罰に対して記録されました。
レビ記 20 章 9 節に記録されるのを “だれでも父または母をのろう者は、必ず殺されなければならない。彼が父または母をのろったので、その血は彼に帰するであろう。” としました。
第四、親の敬いには神様がくださる恵まれた約束があります。 親敬いは神様がくださる福を受ける食器です。 今日の本文に “子たる者よ。主にあって両親に従いなさい。これは正しいことである。「あなたの父と母とを敬え」。これが第一の戒めであって、次の約束がそれについている、 「そうすれば、あなたは幸福になり、地上でながく生きながらえるであろう」”（エペソ人への手紙，6:1-3）しました。
第五番、ご両親の愛と恵みに対して感謝しながら報いることは良い人になった道理です。 子がご両親の愛を着てからもこれを無視してしまったら獣よりましなことが何ですか? 人なら適切に親を敬わなければなりません。
第六番、自分を生んで育てたご両親であるから敬わなければなりません。 お母さんは子供を懐任して十月の間に不便で大変な日を耐えて出産の危険と苦痛を経験しなければなりません。
解産の後にも苦労します。 親は子を養育するために一生涯気づかって手数を惜しまないです。どの事情で自分の生んだ子ではなくても生んだ子以上に養育した親はどうしたらもっと敬いを受けるに値します。

三番目は、親敬いに適当な態度をよく見ます。

第一、生活力がない親を子は丹念に奉養しなければなりません。
第二、親に感謝のしるしを積極的に表現しなければなりません。 言葉として感謝を表現しなければなりません。 犠牲を通じて感謝を表現しなければなりません。
第三、ご両親のお話を傾聴して従順するので心を嬉しくして差し上げなければなりません。
第四、ご両親が神様をよく仕えるようにお手伝いしなければなりません。 イエス様を信じない親には救い得るように専心全力してお手伝いしなければなりません。 人が一生を生きて死んで滅亡されて地獄火で永遠になるように苦痛されることのように惨めな事はないです。 だから親にしなければならない一番重大な事は信じない親をイエス様の位に導くのです。 罪の赦しを受けて永生を得て神様の子供になって天国市民になって将来天国で永遠に住むように導かなければなりません。 イエス様を信じる親には神様を仕える事に積極参加するようにお手伝いしなければなりません。 残った生涯に礼拝ももっとたくさん参加することができる機会を作って差し上げて、聖徒の集まりにも積極参加させて、献金もできるようにしなければなりません。 そして神様の前に立つ時に恥ずかしくなくて称賛と賞を受けるという期待を持つようにお手伝いしなければなりません。 聖徒の皆さん、ご両親が生きていらっしゃる時に親孝行してください。
人は彼がこの世の中に存在する瞬間から神様との関係が始まります。 そして世の中に生まれて一番先に結ぶ人間関係がまさにご両親との関係です。 ご両親との関係はすべての人間関係の根本で基礎です。 ご両親との関係をすぐ持つと他の関係もまっすぐに行くのをことがあります。 人間社会において一番根本的なことは神様との関係とご両親との関係です。 神様を敬い畏れてご両親を敬う人になることが一番重要な要件です。 誰でも後悔なしに住む願ったら神様を敬い畏れて、ご両親を敬わなければなりません。 人生のために限りない恵みと愛を施す神様を敬い畏れて仕えてまた子のために熱い愛と恵みをこぼして注いでくださるご両親を敬わなければなりません。

聖徒の皆さん、限りない愛と恵みを施す神様を心とみ旨と性分と命をつくして敬い畏れて愛しながら仕えましょう。 同時に主にあって親を本当に敬いながら生きて行くように願いします。